



## 平成26年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年3月13日

上場会社名 フリービット株式会社

上場取引所 東

コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高 TEL 03-5459-0522

四半期報告書提出予定日 平成26年3月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年4月期第3四半期の連結業績(平成25年5月1日～平成26年1月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年4月期第3四半期	15,382	△0.5	908	58.2	836	186.6	167	—
25年4月期第3四半期	15,457	△0.1	574	22.6	291	△49.4	△198	—

(注) 包括利益 26年4月期第3四半期 242百万円 (—%) 25年4月期第3四半期 △307百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年4月期第3四半期	8.57	8.51
25年4月期第3四半期	△10.10	—

(注) 平成25年4月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年4月期第3四半期	16,886		6,344		35.4	
25年4月期	17,869		6,242		33.2	

(参考) 自己資本 26年4月期第3四半期 5,980百万円 25年4月期 5,940百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
26年4月期	—	0.00	—	—	—
26年4月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年4月期の配当予想については未定です。

### 3. 平成26年4月期の連結業績予想(平成25年5月1日～平成26年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△3.2	1,200	28.2	1,000	108.1	100	—	5.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年4月期3Q	20,414,000 株	25年4月期	20,411,600 株
② 期末自己株式数	26年4月期3Q	868,800 株	25年4月期	868,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年4月期3Q	19,544,530 株	25年4月期3Q	19,677,570 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

当社グループは、前中期経営計画「SiLK VISION 2013」にて完備した4つのレイヤー（ブロードバンドインフラ、クラウドコンピューティングインフラ、アドテクノロジーインフラ、次世代インターネット・ユビキタスインフラ）を垂直統合し、一気通貫でサービスを提供するMCI（Multi Layer Component Integration）戦略のもと、将来の成長が予想される3つの領域「モバイル革命」「生活革命」「生産革命」への徹底した顧客志向のサービス投入をテーマとし、以下の平成26年4月期の基本方針に則り取組みを進めております。

#### <平成26年4月期基本方針>

- ・LTEサービス開始、「YourNet MVNO Pack」によるパートナー制度立上げ及び独自マーケティング手法によるBtoC向けモバイル事業の本格立上げ
- ・YouriDCのOEM提供及び回線/クラウド/アプリの統合による競争力のあるコスト構造とサービスによるクラウド事業の成長
- ・株式会社フルスピード（以下、「フルスピード」）と当社技術を融合したDSP/3PASの広告配信サービスの共同展開によるアドテクノロジー領域の成長
- ・M2M/ビッグデータ技術を利用した医療周辺サービスの展開及びServersMan各種ライセンスの積極展開等による新規事業の立上げ
- ・不正再発防止のための取組み等グループ管理機能の強化及び成長事業におけるコスト管理体制の徹底
- ・グループブランド構築、戦略的開発及び構造改革のための戦略的投資の実行

当第3四半期連結累計期間においては、重点事業であるモバイルの成長とグループシナジーを活かしたアドテクノロジーサービスの拡大が寄与し、営業利益・経常利益は前年同期比で大幅な増益を達成いたしました。モバイル領域においては、当第3四半期連結累計期間において株式会社NTTドコモとのL2接続によるLTEサービスの本格参入を果たし、回線（3G/LTE/固定網）+クラウド環境（MVNOバックオフィス環境）+ユーザーサポート+ミドルウェア（ServersMan SiLK OS）+端末までをパッケージした「YourNet MVNO Pack」の提供を開始したこと及び本パッケージの第1弾として、株式会社ドリーム・トレイン・インターネット（以下、「DTI」）より「ServersMan SIM LTE」の提供を開始したことにより利益貢献いたしました。さらに、通話基本料とパケット通信代（3G回線常時接続代）及び独自開発の端末「PandA」の料金を合わせた月額2,000円（税抜）からのスマートフォンサービス「freebit mobile」を提供開始し、国内既存のスマートフォンサービス平均利用料金の約1/3の料金を実現いたしました。また、アドテクノロジーインフラにおいては、膨大なコンピューティングパワーとビッグデータ解析技術を活用した広告統合管理システムをはじめ、アドテクノロジー領域の新サービスが軌道に乗り始めたこと等から営業利益が順調に増加いたしました。一方、ブロードバンドインフラにおいては、ISP事業者の買収戦略の再開により契約者数が増加したことに加え、契約ISP事業者へのMVNOサービスの拡販を積極的に進めたことにより売上高は増加いたしました。固定網の成長鈍化を想定した基幹網の大規模な再構築（今後3年間で約1,500百万円のコスト削減を見込む）にかかる先行投資費用等が期初計画どおりに発生いたしました。また、クラウドコンピューティングインフラにおいては、VDCの大型案件の導入・稼働が進んだものの、子会社の株式会社ベッコアメ・インターネット（以下、「ベッコアメ・インターネット」）の不正取引における過年度の会計処理の訂正及び再発防止のための体制変更等に時間を要し、さらに旧経営陣作成の予算を厳密に精査し直したこと等から、事業の進捗に遅れと計画差異が生じました。

以上の結果、売上高は15,382,387千円（前年同期比0.5%減）、営業利益は908,567千円（前年同期比58.2%増）、経常利益は836,045千円（前年同期比186.6%増）となりました。なお、平成25年5月に発覚いたしましたベッコアメ・インターネットの不明瞭な取引及び会計処理に関する特別調査委員会の調査結果を踏まえ、フルスピードを連結子会社化した平成23年4月期まで遡る過年度の決算の修正、再発防止策の作成等を行いましたことから、本件に関する一連の作業に掛かる費用が169,660千円発生いたしました。営業利益・経常利益の増加により、四半期純利益は167,448千円（前年同期は198,813千円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ① ブロードバンドインフラ

戦略的なISP事業の買収及びMVNOサービス拡販による固定回線依存体質からの脱却を進めた結果、モバイル通信の契約数は順調に推移いたしました。その結果、売上高は5,741,075千円（前年同期比1.2%増）となりました。固定回線の契約数減少及び固定網減少を見越した基幹網の再構築にかかる先行投資費用が発生したこと等により、セグメント利益は559,408千円（前年同期比21.3%減）となりました。

② クラウドコンピューティングインフラ

売上変動の激しいゲーム業界以外の顧客開拓を図り、昨今のニーズの高まりにより市場拡大が予測されるディジタルタリカバリ市場への参入に向けたクラウドバックアップサービス等に注力し、サービス開発やVDCにおける大型案件の導入を積極的に進めてまいりました。一方、ベッコアメ・インターネットの不正取引にかかる対応に時間を要し事業進捗が遅れが生じ、また、当社が運営するデータセンターの再構築にかかるコスト等が発生いたしました。以上の結果、売上高は1,682,319千円（前年同期比3.7%減）、セグメント損失は89,402千円（前年同期は6,648千円のセグメント損失）となりました。

③ アドテクノロジーインフラ

子会社のフルスピードの構造改革が終了し、利益基調へと進んだことから、アドテクノロジーへの転換を企図した新規サービスの本格的な拡販が始動いたしました。当第3四半期連結累計期間においては、潤沢なネットワーク及びコンピューティングリソースにより継続的な差別化が可能と想定される広告主によるリアルタイムの広告入札と配信先選定をテクノロジーで自動化する広告配信システムを開発し、平成25年7月に第1弾をリリースしたことから、本サービスの取引社数が順調に増加いたしました。以上の結果、売上高は5,539,670千円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は412,034千円（前年同期比59.5%増）となりました。

④ 次世代インターネット・ユビキタスインフラ

M2M領域におけるコアコンポーネントである「Cloud@SD」の開発を進め、シンプルなソリューションによる顧客提案の拡大を継続しております。当第3四半期連結累計期間においては、家電販売における赤字幅を大幅に縮小し、利益率の高い独自性のあるソリューションへのシフトを推進いたしました。以上の結果、売上高は24,119千円（前年同期比71.5%減）、セグメント損失は183,387千円（前年同期は274,625千円のセグメント損失）となりました。

⑤ B2C

子会社のDTIにおいて、成長著しいモバイル・クラウド領域における戦略的サービスを投入いたしました。中でも、月額490円（税込）で最大150Kbpsでの常時接続が可能なエンドユーザー向けの無線通信サービス「ServersMan SIM LTE」、当社の特許技術を採用したスマートフォン向けIP電話サービス「ServersMan 050」等、MVNOサービスの提供に注力いたしました。さらに、平成25年11月に開始した月額2,000円（税抜）からのスマートフォンサービス「freebit mobile」も順調に立ち上がり、モバイルユーザー数の拡大に寄与いたしました。以上の結果、売上高は3,773,356千円（前年同期比15.3%増）、セグメント利益は671,851千円（前年同期比70.1%増）と大幅な増益となりました。

セグメント別売上高及びセグメント損益

（単位：千円）

区分	売上高	セグメント利益 又は損失（△）
ブロードバンドインフラ	5,741,075	559,408
クラウドコンピューティングインフラ	1,682,319	△89,402
アドテクノロジーインフラ	5,539,670	412,034
次世代インターネット・ユビキタスインフラ	24,119	△183,387
B2C	3,773,356	671,851
その他	192,352	△2,394
調整額	△1,570,508	△459,543
合計	15,382,387	908,567

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は16,886,561千円となり、前連結会計年度末と比べて983,257千円減少しました。これは主として、受取手形及び売掛金が323,681千円及びのれんが584,578千円減少したことによるものです。

負債は10,542,040千円となり、前連結会計年度末と比べて1,085,242千円減少しました。これは主として、短期借入金が653,000千円増加したものの、長期借入金が1,071,568千円及び引当金が729,786千円減少したことによるものです。

純資産は、主に四半期純利益及び少数株主持分の増加により、前連結会計年度末と比べて101,985千円増加の6,344,521千円となり、この結果、自己資本比率は35.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ベッコアメ・インターネットの不正取引に掛かる特別調査委員会の調査費用及び過年度訂正監査費用169,660千円を特別損失として計上したこと及び最近の業績の動向を踏まえ、平成25年9月12日に平成26年4月期第2四半期連結累計期間及び通期連結業績の予想数値を修正いたしました。現時点の事業進捗等を勘案し、平成25年9月12日公表の数値に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,685,302	4,644,087
受取手形及び売掛金	3,159,885	2,836,204
商品及び製品	119,081	51,016
仕掛品	11,063	5,930
原材料及び貯蔵品	6,089	4,902
その他	2,818,390	2,538,982
貸倒引当金	△263,558	△165,900
流動資産合計	10,536,253	9,915,222
固定資産		
有形固定資産	1,577,624	1,926,552
無形固定資産		
のれん	3,670,893	3,086,314
ソフトウェア	298,813	320,125
その他	106,932	130,163
無形固定資産合計	4,076,639	3,536,603
投資その他の資産		
投資有価証券	1,047,064	979,646
差入保証金	445,459	379,957
その他	684,815	694,812
貸倒引当金	△498,037	△546,233
投資その他の資産合計	1,679,301	1,508,183
固定資産合計	7,333,565	6,971,339
資産合計	17,869,818	16,886,561
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	80,170	60,198
短期借入金	1,670,000	2,323,000
1年内返済予定の長期借入金	1,819,867	1,858,788
未払金	2,999,618	3,084,851
未払法人税等	156,189	112,190
引当金	227,230	78,169
その他	791,041	840,250
流動負債合計	7,744,118	8,357,449
固定負債		
社債	200,000	—
長期借入金	2,530,900	1,459,331
引当金	595,501	14,776
その他	556,762	710,484
固定負債合計	3,883,164	2,184,591
負債合計	11,627,282	10,542,040

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,045,085	3,045,685
資本剰余金	1,673,302	1,673,902
利益剰余金	1,691,518	1,714,057
自己株式	△488,747	△488,747
株主資本合計	5,921,159	5,944,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,148	5,114
為替換算調整勘定	13,826	30,435
その他の包括利益累計額合計	18,974	35,550
新株予約権	3,348	3,348
少数株主持分	299,054	360,725
純資産合計	6,242,535	6,344,521
負債純資産合計	17,869,818	16,886,561



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
売上高	15,457,369	15,382,387
売上原価	9,952,045	9,437,589
売上総利益	5,505,323	5,944,798
販売費及び一般管理費	4,930,855	5,036,230
営業利益	574,467	908,567
営業外収益		
受取利息	12,827	1,597
受取配当金	551	204
貸倒引当金戻入額	—	38,500
負ののれん償却額	15,329	—
受取保険料	—	5,678
その他	15,444	3,551
営業外収益合計	44,152	49,531
営業外費用		
支払利息	92,082	74,419
持分法による投資損失	182,718	39,703
その他	52,121	7,929
営業外費用合計	326,923	122,053
経常利益	291,697	836,045
特別利益		
子会社株式売却益	—	13,461
投資有価証券売却益	34	—
特別利益合計	34	13,461
特別損失		
減損損失	—	41,458
貸倒引当金繰入額	154,827	—
債務保証損失引当金繰入額	580,000	—
過年度決算訂正関連費用	—	169,660
その他	28,297	35,995
特別損失合計	763,124	247,115
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△471,393	602,391
法人税、住民税及び事業税	160,895	169,379
法人税等調整額	△310,419	206,646
法人税等合計	△149,524	376,026
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△321,869	226,365
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△123,055	58,916
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△198,813	167,448

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△321,869	226,365
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,695	△70
為替換算調整勘定	—	8,524
持分法適用会社に対する持分相当額	6,366	8,084
その他の包括利益合計	14,061	16,538
四半期包括利益	△307,807	242,904
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△188,473	184,024
少数株主に係る四半期包括利益	△119,334	58,879

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成25年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	アドテクノロジー インフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C
売上高					
外部顧客への売上高	4,531,176	1,604,286	5,547,187	83,716	3,272,297
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,144,475	143,337	52,298	790	1,539
計	5,675,652	1,747,623	5,599,485	84,507	3,273,837
セグメント利益又は損失(△)	710,995	△6,648	258,269	△274,625	394,924

(単位:千円)

	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高				
外部顧客への売上高	418,704	15,457,369	—	15,457,369
セグメント間の内部売上高 又は振替高	50,107	1,392,549	△1,392,549	—
計	468,812	16,849,918	△1,392,549	15,457,369
セグメント利益又は損失(△)	△51,995	1,030,918	△456,450	574,467

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△456,450千円には、のれん償却額△455,746千円及びその他の連結調整額△703千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	アドテクノロジ ーインフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C
売上高					
外部顧客への売上高	4,367,930	1,533,024	5,510,817	22,438	3,771,346
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,373,144	149,295	28,852	1,681	2,009
計	5,741,075	1,682,319	5,539,670	24,119	3,773,356
セグメント利益又は損失(△)	559,408	△89,402	412,034	△183,387	671,851

(単位：千円)

	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高				
外部顧客への売上高	176,828	15,382,387	—	15,382,387
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,524	1,570,508	△1,570,508	—
計	192,352	16,952,895	△1,570,508	15,382,387
セグメント利益又は損失(△)	△2,394	1,368,110	△459,543	908,567

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△459,543千円には、のれん償却額△480,411千円、貸倒引当金の組替額11,262千円及びその他の連結調整額9,605千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から「SI」に関しましては、量的な重要性が減少したため「その他」に含めて記載する方法に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。